

(注) 本資料は、ワーキングチームにおける論点及び検証結果を分かりやすく表現することを目的とし、できる限り平易な記載としています。

地震対策 – 離れた地域で大規模な地震が発生した際の発電所の安全性の検証 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.16

南海トラフ地震※など、他の地域で大規模な地震が発生しても、発電所の安全性は維持されるのか

※駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震

ワーキングチームにおける論点名称：
基準地震動の代表性及び策定時における他地域の地震の考慮について



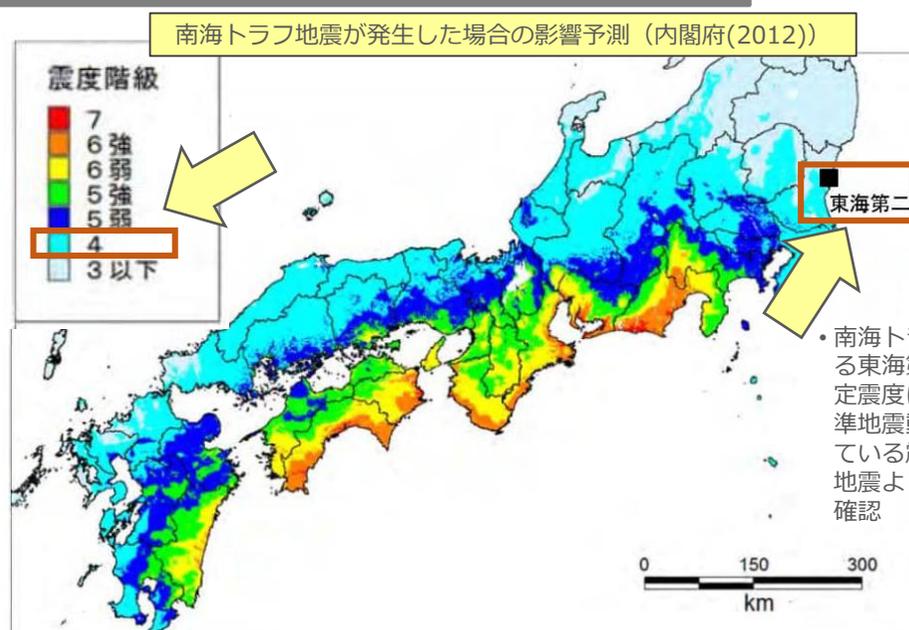
第20回ワーキング
(2022.2.21) で議論

ワーキングチーム検証結果

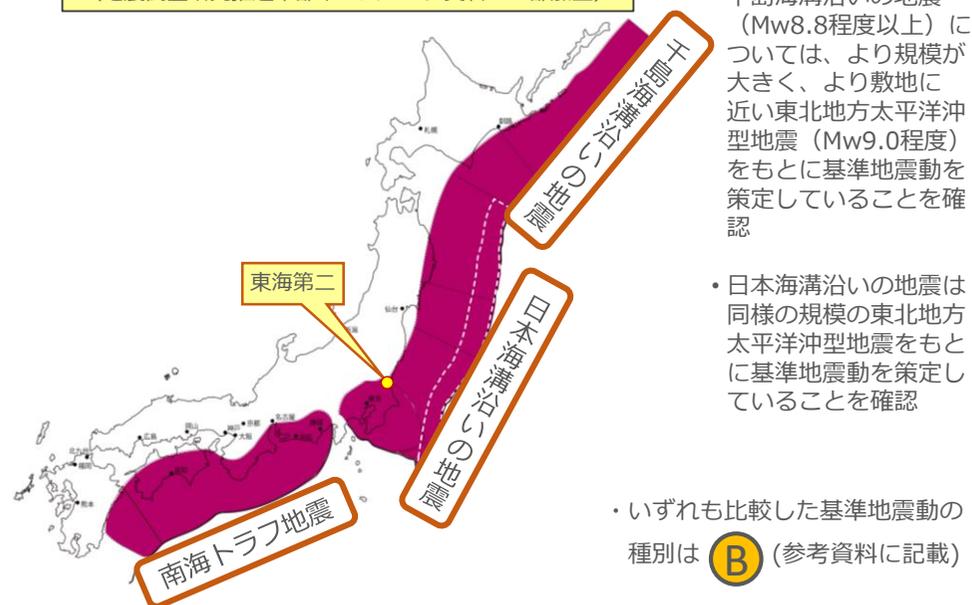
安全性が維持されることを確認

○国の審査で確認していない南海トラフ地震や、地震調査研究推進本部が想定している日本海溝沿いの地震及び千島海溝沿いの地震について、日本原電が基準地震動を策定するために検討した地震と比較した結果、これらの大規模な地震と同等または、より大きな地震をもとに基準地震動が策定されていることをワーキングチームにおいて確認

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

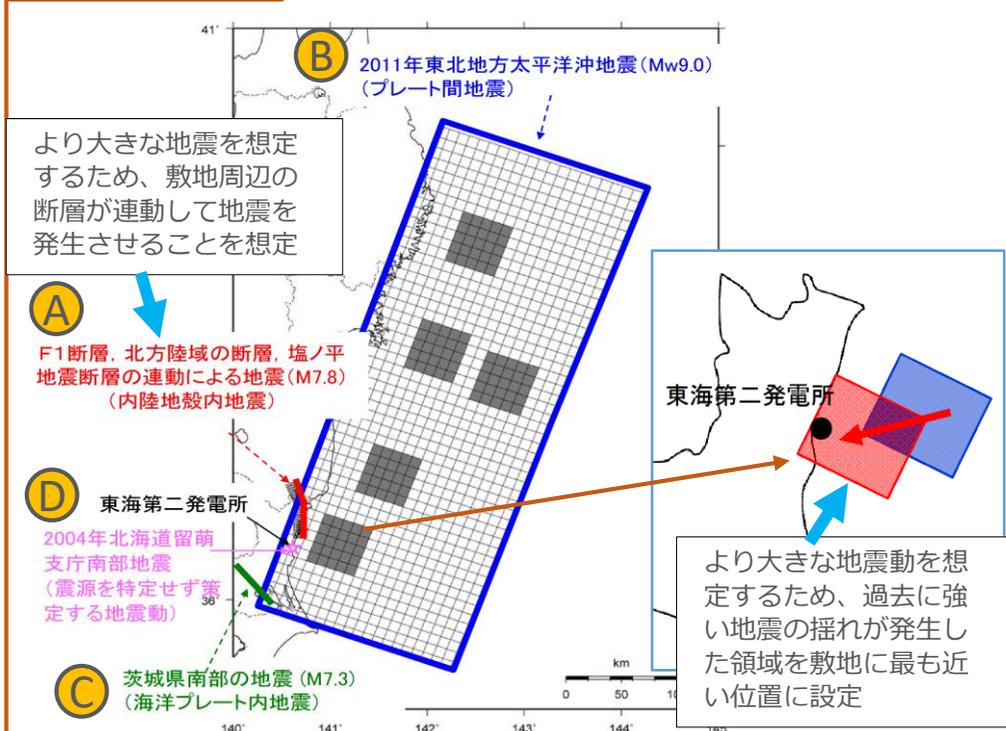


海溝型地震の長期評価
(地震調査研究推進本部ホームページ資料に一部加工)

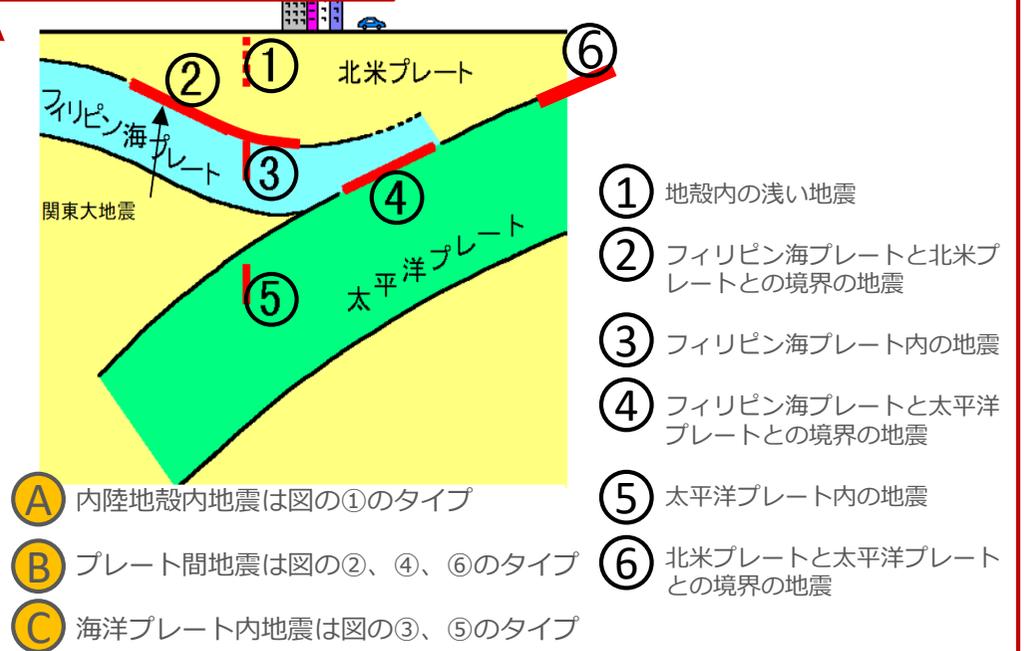


東海第二発電所の敷地に最も大きな影響を与える地震（検討用地震） 及び耐震設計の基準となる地震の揺れ（基準地震動）

検討用地震



地震発生タイプ



基準地震動

評価地震の種別	最大値 (ガル)
A 内陸地殻内地震 (4波)	903
B プレート間地震 (2波)	1009
D 2004年北海道留萌支庁南部地震 (1波)	610
応答スペクトル手法 (1波)	870

2011年時点の
基準地震動
600ガル

C * 海洋プレート内地震は他の基準地震動に包括される

地震発生様式

検討用地震

敷地ごとに震源を特定して策定する地震動	内陸地殻内地震	A F1断層、北方陸域の断層、塩ノ平地震断層の連動による地震 (M7.8)
	プレート間地震	B 2011年東北地方太平洋沖地震 (Mw9.0)
	海洋プレート内地震	C 茨城県南部の地震 (M7.3)
震源を特定せず策定する地震動		D 2004年北海道留萌支庁南部地震